取組事例　漁業系廃棄物資源利活用推進事業

（積丹町）

積丹町は、町の経済を支えるウニの生産安定・向上を目指し、磯焼けにより減少した藻場の造成（海の森づくり）を目的として、ウニ殻を原料とした施肥材を開発、また、それを利用した藻場造成の実証と、さらに、造成藻場によるウニ生産向上効果を検証して、ウニと藻場の循環型再生産を実践するとともにSDGs（持続型漁業・ゼロエミッション・ブルーカーボン）を推進している。

関連数値目標・KPI

数値目標	基準値（R元）	実績（R2）	目標値（R6）	進捗率（%）
漁業協同組合員数（人）	180	168	168	100.0
漁協水揚金額（千円）	1,424,200	941,741	1,195,000	78.8

取組の推進体制

平成27年度から積丹町は国の地方創生交付金を利用して産学官の連携による「漁業系廃棄物資源利活用推進事業」を実施。

実証試験を「水産多面的機能発揮対策事業」の地元漁業者による活動組織である、「美国・美しい海づくり協議会」と「余別・海HUGくみたい」が担当し、ウニ殻肥料による藻場造成効果の実証試験を行った。

課題と今後の対応状況

ウニ殻肥料は、漁業者個人レベルで、安全・安価・容易で広範囲に実施可能な、栄養塩供給方法の革新的な省力化技術である。この技術を磯焼けで苦悩している地域へ普及することも今後の課題である。

また、ブルーカーボンによるカーボンオフセットも視野に入れた連携事業の設立による地球環境保全に貢献する取り組みも検討したい。

取組事例

ウニと藻場の循環型再生産漁業の構築

○主な取組

ウニ殻に含まれる窒素・リン成分の海藻増殖効果を検証するため、養殖ホソメコンブによる生育比較試験を行い重量比で３．７倍の結果を得た。

そこで、磯焼け漁場への栄養塩供給手段としてウニ殻を天然ゴムで固形化したウニ殻肥料を考案し、令和元年度に磯焼け漁場での藻場再生実証試験を行った。

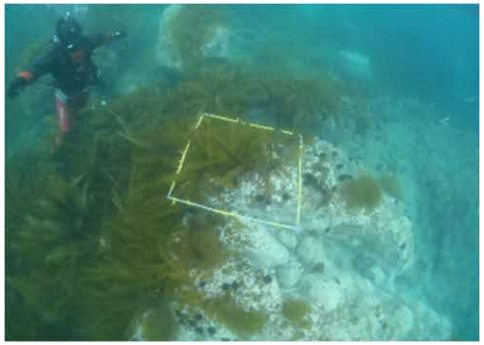
右側　対照ロープ　3本分　13kg/本
左側　施肥ロープ　3本分　48.3kg/本　3.7倍

○主な成果

令和２年３月にウニ殻肥料を設置した場所でホソメコンブ群落形成を確認し、ウニ殻肥料の藻場造成効果が実証できた。

また、同年７月のウニ生殖腺調査では、ウニ殻肥料設置区と対照区の比較では生殖腺重量比率が１．５倍、また、品質でも格段の向上がみられ、藻場造成によるウニ生産増大効果も実証できた。

さらに、藻場は漁業生産効果だけではなく、生態系保全機能やＣＯ2吸収機能（ブルーカーボン）による環境保全効果も期待できる。



令和2年5月16日　左側　ウニ殻肥料設置区　右側　対照区